

日米首脳会談

共同記者会見要旨＝日米首脳会談



共同記者会見に臨む米国のトランプ大統領（左）と安倍晋三首相＝6日午後、東京・元赤坂の迎賓館（代表撮影）

6日に行われた安倍晋三首相とトランプ米大統領の共同記者会見要旨は次の通り。

【日米同盟】

首相 北朝鮮をはじめ、緊迫する地域情勢にあつて、今回のトランプ大統領の初めてのアジア歴訪は歴史的な訪問だ。日米同盟の揺るぎない絆を世界に示すことができた。引き続き連携して地域の平和と安定に貢献していきたい。

大統領 両国は絆を共有している。日米にはさまざまな課題があるが一緒に立ち向かっていく。

【北朝鮮】

首相 今後取るべき方策について完全に見解の一致を見た。北朝鮮に対する圧力を最大限まで高めていくことで完全に一致した。追加的な独自制裁を決断した。35団体・個人の資産凍結を7日に決定する。日米で連携して中国、ロシアを含む関係国への働き掛けを行う。

大統領 戦略的忍耐の時代は終わった。日本国民と団結し、北朝鮮の悪意に満ちた脅威に立ち向かっていく。金正恩（朝鮮労働党）委員長がもし（拉致被害者を）帰してくれるということになったら、特別なことの始まりになる。

【インド太平洋戦略】

首相 自由で開かれたインド太平洋の実現に向けた協力を強化することで一致した。こうした戦略に賛同してもらえらるなら、いずれの国とも共に進んでいく。

【貿易】

首相 2国間の貿易、投資をもっと活性化するために議論を重ねることで一致した。麻生太郎副総理兼財務相－ペンス米副大統領の枠組みで成果を出していきたい。

大統領 日本との経済関係を改善したい。公平で自由、互恵的な貿易関係をつくっていきたい。慢性的な貿易の不均衡を是正していかなければならない。日本に対する貿易赤字を減らしていかなければならない。

【防衛】

大統領 首相はさまざまな防衛装備品を米国から購入することになるだろう。そうすれば上空でミサイルを撃ち落

とすることができる。日本は大量の装備品を（米国から）買うことが好ましい。

首相 日本の防衛力を質的、量的に拡充していかなければならない。米国からさらに購入していくことになる。（北朝鮮のミサイルについて）われわれは必要なものは迎撃していく。（時事通信 2017/11/06-18:14）

対北朝鮮、最大限の圧力＝トランプ氏「対日貿易を是正」 －日米首脳会談



共同記者会見を終え、米国のトランプ大統領（左）と握手する安倍晋三首相＝6日午後、東京都港区の迎賓館

安倍晋三首相は6日午後、東京・元赤坂の迎賓館で米国のトランプ大統領と会談し、核・ミサイル開発を続ける北朝鮮に対し、圧力を最大限まで高めることで一致した。大統領は通商政策で対日貿易赤字の是正に言及。両首脳は中国を念頭にインド太平洋戦略を推進していくことでも合意した。

首脳会談はワーキングランチ約70分、実務形式が約35分の計1時間45分。日本側は河野太郎外相、谷内正太郎国家安全保障局長ら、米側からティラーソン国務長官、マクマスター大統領補佐官らが出席。実務の会談には、麻生太郎副総理兼財務相らも加わった。

首相は会談後の共同記者会見で、北朝鮮情勢が緊迫する中での大統領来日を「歴史的な訪問」と位置付け、「日米同盟の揺るぎない絆を世界に示すことができた」と強調。北朝鮮対応をめぐり「今後取るべき方策について完全に（大統領と）見解の一致を見た」と指摘した。両首脳は、日米が主導して北朝鮮への圧力強化に向けて中国やロシアなどへ働き掛けていくことを確認した。

大統領は会見で「（北朝鮮に対する）戦略的忍耐の時代は終わった。日本国民と団結し、北朝鮮の脅威に立ち向かっていく」と語った。首相は北朝鮮に対する追加的な独自制裁措置に踏み切ると表明。日本政府は35団体・個人の資産凍結を7日に決定する。米政府が近く判断する北朝鮮のテロ支援国再指定について、会談で米側から説明があった。両首脳は、北朝鮮による拉致問題の解決に日米が協力して取り組むことを申し合わせた。



首脳会談に臨む米国のトランプ大統領(左手前から3人目)と安倍晋三首相(右側中央) = 6日午後、東京・元赤坂の迎賓館(代表撮影)

会談では通商政策も協議した。大統領は「日米の貿易不均衡を是正していかないといけない」と強調。日本側の説明によると、大統領は日米自由貿易協定(FTA)交渉には触れなかった。両首脳は2国間の貿易問題について、麻生氏とペンス米副大統領をトップとする日米経済対話で協議を継続することで一致した。

会見では、大統領が「首相はさまざまな防衛装備品を米国から購入することになるだろう。そうすれば上空でミサイルを撃ち落とすことができる」と装備品購入を求めた。これに対し首相は米国からの装備品導入を増やしていく方針を表明。北朝鮮の弾道ミサイルについて「われわれは必要なものは迎撃していく」と明言した。

一方、経済、軍事両面で台頭する中国をにらみ、両首脳はアジアからアフリカに至る地域の安定と成長を目指す「自由で開かれたインド太平洋戦略」の推進を確認した。

大統領は6日夜、首相夫妻主催の夕食会に出席。7日午前に日本を出発し、次の訪問国の韓国へ向かう。

◇日米首脳会談骨子

- 一、北朝鮮への圧力を最大限まで高めることで一致
- 一、対北朝鮮独自制裁として、日本政府は35団体・個人の資産を凍結
- 一、トランプ米大統領が対日貿易赤字の是正に言及
- 一、日米経済対話で2国間の貿易、投資活性化を議論
- 一、自由で開かれたインド太平洋戦略を推進(時事通信 2017/11/06-19:58)

与党、日米連携を評価＝野党は「貿易不公正」に反発一日米首脳会談

北朝鮮への対応が主要議題となった日米首脳会談について、与党からは6日、「地域の平和と安定、繁栄に両国で協力していこうと確認されたのは意義あることだ」(自民党の岸田文雄政調会長)などと評価する発言が相次いだ。野党からは対日貿易赤字の是正に言及したトランプ米大統領の発言に反発する声が上がった。

岸田氏は党本部で記者団に「自由で開かれたインド太平洋に向けて協力していくことを両首脳間で確認した」と会談の成果を強調。日米間の通商政策については「首脳の思を受け、しっかりと議論していかなければならない」と述べ、日米経済対話の進展に期待を示した。二階俊博幹

事長も「自由で公正な取引のために、日米が共に努力して知恵を出していくことが必要だ」と指摘した。

北朝鮮への対応に関し、公明党の山口那津男代表は「日米同盟の揺るぎない絆を世界に示した」と評価。「中国やロシアとの連携を深め、北朝鮮問題の解決に当たってほしい」とも要望した。

これに対し、立憲民主党の福山哲郎幹事長は、トランプ氏が演説で「日本との貿易は不公正」と述べたことに対し「日本の市場は透明性が高く、発言は承服しかねる」と反発。希望の党の大島敦幹事長も談話で「今後の両国の経済交渉に不安を抱かせるものだ。政府は、米国に対し安易に妥協すべきでない」とくぎを刺した。

共産党の志位和夫委員長は対北朝鮮政策に関し「外交的解決のための方策が一切、語られなかった」と批判。両首脳が共同記者会見で、防衛装備品購入をめぐるやりとりを交わしたことに對しても「公然と言うのは異常だ」と非難した。(時事通信 2017/11/06-20:08)

日米首脳会談・識者談話

◇対北朝鮮で中韓にメッセージ

渡辺靖・慶応大教授(米国研究)の話 トランプ米大統領は横田基地に到着した直後から、日本政府が提起した「自由で開かれたインド太平洋戦略」に言及した。軍事的に台頭する中国に対し「太平洋地域を好きなようにはさせない」というメッセージだ。日米首脳会談では、中国による北朝鮮への圧力強化の必要性に加えて、韓国の協力が重要との認識で一致した。対北朝鮮で融和的姿勢を示しがちな韓国の文在寅政権に対し、「方向性を誤らないように」とけん制している。

トランプ氏は会見で、拉致被害者の解放が北朝鮮との今後の関係改善のきっかけになると示唆した。ただ、米国にとっては核・ミサイル開発問題の方が優先順位は高い。拉致問題で進展があるとすれば、北朝鮮がとても追い込まれた状況で、核問題と併せた形で拉致問題解決が「関係改善の条件」と突き付けられた場合が想定されるが、まだその段階には遠い。

今回の日本訪問の成功を受けて、次にトランプ氏を受け入れる韓国と中国の北朝鮮対応などをめぐるハードルは上がった。その意味でも最初の訪問国に日本を選んだことは重要だった。

◇地域への関与、本心から

渡部恒雄・笹川平和財団上席研究員の話 トランプ大統領は個人的な関係を重視する人物だ。米国のアジア地域へのコミットメント(関与)を国家のレベルだけでなく、個人レベルで確認した意義は大きい。

トランプ氏は昨年の大統領選で、世界から手を引いていくようなイメージをつくり出した。韓国も北大西洋条約機構(NATO)諸国も心配した。しかし、今回は明らかに

リスクをとって同盟への関与を示した。側近に言われたからでなく、心の底から言っている印象だ。このことは日本だけでなく、他の同盟国にも安心感を与えるだろう。

対北朝鮮では、圧力をかけていく以上、偶発的な衝突のリスクが潜在的にある。しかし、リスクを取らなければ北朝鮮が核を完成させてしまう。圧力を高め、交渉のテーブルに着かせることが大事で、日米はそのためのステップを踏んでいる。

貿易関係で日米に考え方の違いがあることは最初から分かっていた。大事なことは経済問題を安全保障に飛び火させないこと、日米関係全体を悪化させないことだ。そこはバランスが取れていたし、トランプ氏もよく分かっているようだ。

◇北朝鮮との交渉は期待薄

森聡・法政大教授（現代米外交）の話 日米共同記者会見で、トランプ大統領からは北朝鮮に対し従来の激しい言葉は聞かれなかった。北朝鮮に実質的な譲歩の用意があるかを探る「対話」はあり得るだろうが、非核化などでの譲歩は当面ないとみられるので、核・ミサイル開発問題で本格的な「交渉」はあまり期待できないのではないかとみられる。

トランプ氏と拉致被害者家族との面会は、北朝鮮問題関与の決意を示す意図があったのではないかとみられる。金正恩体制の非人道性を世界にアピールし、制裁強化へ向けた諸外国への働き掛けに力強さを持たせる思惑もあるとみられる。

貿易問題でトランプ氏は、中国が米企業を極めて不公正に取り扱っており、近々非常に強力な措置を取ると述べた。トランプ政権の対中政策で貿易不均衡問題が占めるウエートは、今後高まるとみられる。

日米両首脳が記者会見で語った「インド太平洋地域」の具体的な内容は見えなかったが、海洋安全保障と経済の少なくとも二つの側面を持つとみられる。トランプ氏がベトナムで行う予定の政策演説でどこまで具体的に語るか注目される。（時事通信 2017/11/06-19:14）

経済団体、北朝鮮への対応を評価＝日米首脳会談

6日行われた日米首脳会談について、経済団体からは、北朝鮮に対し日米両国が最大限の圧力をかける点で一致したことを前向きに評価する声が相次いだ。

経団連の榊原定征会長は「日米が100%共にあることが改めて強調されるとともに、中国が果たす役割と日米韓3カ国の連携の重要性が確認された意義は大きい」とのコメントを発表した。

経済同友会の小林喜光代表幹事は「拉致被害者や被害者家族との面会を通じて拉致問題の解決に焦点を当てたことは、日米関係の緊密さを象徴する力強い動きとして評価したい」と強調した。（時事通信 2017/11/06-22:09）

日米首脳に不快感＝中国

【北京時事】中国外務省の華春瑩・副報道局長は6日の記者会見で、日米首脳が中国に対し、北朝鮮への圧力強化を働き掛けることで一致したことに、「われわれは誰からも、何をすべきか言われる必要はない」と不快感を示した。

華氏は「中国は一貫して朝鮮半島核問題を政治的、外交的手段で平和的に解決するため、たゆまぬ努力をしている」と強調し、「責任ある大国の役割」を担っていると主張した。（時事通信 2017/11/06-20:18）

日米、北朝鮮へ圧力最大限 トランプ氏、武器購入など要求

共同通信 2017/11/6 22:55 11/6 22:57 updated



トランプ米大統領（左）との会談を終え、共同記者会見する安倍首相＝6日午後、東京・元赤坂の迎賓館（代表撮影）

安倍晋三首相は6日、トランプ米大統領と東京の迎賓館で会談し、核・ミサイル開発を進める北朝鮮に政策を変えさせるため、圧力を最大限に高める方針を確認した。トランプ氏は共同記者会見で日米間の貿易不均衡是正を要求。米国製武器の購入拡大も求めた。両首脳は会談で、東・南シナ海など海洋進出を強める中国をにらみ、首相が新たに掲げる「自由で開かれたインド太平洋戦略」の実現へ協力強化で一致した。

首相は記者会見で、北朝鮮情勢に関し「同盟の揺るぎない絆を示すことができた。日米が100パーセント共にあると力強く確認した」と強調。トランプ氏は、同盟がかつてなく緊密化したと応じた。



トランプ米大統領（左から3人目）と会談する安倍首相（右端）＝6日午後、東京・元赤坂の迎賓館（ロイター＝共同）

与党「揺るぎない絆示せた」 日米会談の成果強調

共同通信 2017/11/6 20:51 11/6 20:53 updated

日米首脳会談で、核・ミサイル開発を続ける北朝鮮に対する圧力強化を確認したことを受け、与党からは6日、「日

米同盟の揺るぎない絆を示すことができた」(山口那津男公明党代表)と歓迎の声が相次いだ。先の衆院選で北朝鮮対応を争点に掲げただけに、安全保障を主要議題とした日米会談の成果をアピールした。

自民党の岸田文雄政調会長は党本部で記者団に対し、トランプ米大統領が北朝鮮による拉致被害者家族と面会したことについて「米国にとっても拉致問題が重要な課題だと示したのは、大きな意義がある」と強調した。

野党「国会論戦で会談の説明を」 全ての選択肢支持に批判も

共同通信 2017/11/6 20:45

野党からは6日、日米首脳会談に関し「国会で国民にしっかり説明するよう求めていく」(立憲民主党の福山哲郎幹事長)として、特別国会の論戦を通じ会談内容の開示を求めていく声が上がった。安倍晋三首相が軍事力行使を含む「全ての選択肢がテーブルの上にある」とするトランプ氏への支持を表明したことには「外交的解決の方策が一切語られなかった」(共産党の志位和夫委員長)と批判が出た。

対北朝鮮制裁の対象拡大を巡り、福山氏は「武力行使の選択肢を避け、対話につながることを期待」と指摘。希望の党の大島敦幹事長は日米の貿易不均衡について「安易に妥協すべきではない」とくぎを刺した。

トランプ大統領 韓国へ 北朝鮮への圧力最大化を協議

NHK11月7日 4時56分

アメリカのトランプ大統領は、就任以来初のアジア歴訪の最初の訪問国、日本でのすべての日程を終えて、7日午前、次の訪問国の韓国に向かいます。トランプ大統領は日米両国で合意した核・ミサイルの開発を続ける北朝鮮への圧力の最大化について、韓国のムン・ジェイン(文在寅)大統領とも協議することになっています。

日本滞在2日目の6日、トランプ大統領は、安倍総理大臣と首脳会談を行い、会談後の記者会見で、「北朝鮮は核実験を行い、日本の上空を通過する弾道ミサイルを発射し、国際社会の平和と安全を脅かしている。容認できない」と述べ、北朝鮮の核・ミサイル開発に対して、日米両国が、最大限まで圧力を強めていくことを確認しました。

またトランプ大統領は、貿易不均衡の問題にも触れ、「アメリカは、日本との間で、経済関係を改善させる決意だ。貿易赤字を解消するため、市場への平等なアクセスを確保していく」と述べ、貿易不均衡の是正を日本に求めていく考えを明らかにするとともに、アメリカ製の兵器の購入に期待を示しました。

日本滞在中の最後の行事となった晩さん会では「アメリカと日本は今後、何百年にもわたってともにすばらしい未来を築いていくことができる」と述べ、訪日のすべての日程を締めくくりました。

トランプ大統領は7日午前、日本をたつて、次の訪問国の韓国に向かい、ソウルでムン・ジェイン大統領と首脳会談を行い、日米両国で合意した核・ミサイルの開発を続ける北朝鮮への圧力の最大化について韓国とも協議することになっています。

識者「北朝鮮が議題のトップ」

トランプ大統領の韓国訪問について、ブッシュ政権時代にアメリカ国務省の補佐官として朝鮮半島政策を助言していた、ジョージタウン大学のバルビナ・ファン客員教授は、NHKのインタビューに対し「北朝鮮が議題のトップだ」と指摘しました。

そのうえで「常にアメリカ側には韓国が同じように行動しないのではないかと心配がある」と指摘し、トランプ大統領がムン・ジェイン大統領との首脳会談や、韓国の国会で行う演説で、北朝鮮への圧力強化に向けて結束を求めるとの見通しを示しました。

一方で、「北朝鮮に対する両首脳のイデオロギーや態度は違うが、実際の政策は似ている」とも指摘しました。

また、「トランプ大統領は、アメリカと韓国のFTA=自由貿易協定が好きではなく、もっと韓国側が譲歩すべきだと主張するだろう」と述べ、トランプ大統領がムン大統領に対し、貿易の不均衡を是正するため再交渉を求めるとの見方を示しました。

韓国大統領 北朝鮮問題で難しい対応

韓国では、北朝鮮への武力行使も辞さない姿勢を示し圧力を強めるトランプ大統領のほうが北朝鮮以上に緊張を高めているという反発がムン・ジェイン大統領の支持層である革新系の人たちの間で高まっていて、ソウルではトランプ大統領の訪問に反対する集会も開かれています。

ムン大統領も「韓国の了解なしにどの国も朝鮮半島で軍事行動は起こせない」と繰り返し述べ、強い制裁措置は、あくまで北朝鮮を非核化の交渉に引き出し平和的に問題を解決するための手段だという立場を明確にしています。

ただ、韓国内では今回、トランプ大統領が日本や中国には2泊するのに韓国は1泊という日程になったことで、保守系の野党を中心に「ムン大統領が北朝鮮との対話に固執するあまり、トランプ大統領から軽んじられていて、アメリカとの同盟関係が揺らいでいる」という批判が広がっています。

このためムン大統領としては、首脳会談でトランプ大統領との足並みは乱れていないとアピールしなければならず、北朝鮮への融和的なアプローチも必要だという持論をどこまで展開するか、難しい対応を迫られています。

北朝鮮対応で米韓に温度差

韓国のムン・ジェイン大統領はことし6月、ワシントンで初めてアメリカのトランプ大統領と会談したあと、記者団に北朝鮮の核問題について「制裁と対話を活用した段階的かつ包括的なアプローチで根拠的に解決するという考え方

で一致した」と述べ、北朝鮮との対話も必要だというみずからの立場はトランプ大統領からも理解を得たという認識を強調しました。

しかし、その後もICBM＝大陸間弾道ミサイル級の「火星14型」など、北朝鮮が弾道ミサイルの発射を繰り返すにつれてトランプ大統領は強硬姿勢に傾き、ムン大統領との温度差が目立ち始めました。

9月に北朝鮮が6回目となる核実験を実施した直後には、トランプ大統領がツイッターで「私が述べてきたとおり、北朝鮮との融和的な対話は効果を上げないことを韓国は理解し始めている」と書き込み、以前からムン大統領の姿勢に懐疑的だったことを明かしました。

最近、ムン大統領は「朝鮮半島で二度と戦争が起きてはならない」と繰り返し述べていますが、トランプ大統領は軍事的な選択肢も排除しないと表明していて、両首脳がどこまで足並みをそろえられるか注目されます。

日米首脳会談 北朝鮮への圧力 抑止力強化などを確認

NHK11月6日 19時19分



安倍総理大臣はアメリカのトランプ大統領と日米首脳会談に臨み、北朝鮮に対して最大限の圧力をかけるため中国やロシアなど関係国に働きかけを強めていくことで一致するとともに、日米同盟の抑止力や対処力の強化に取り組むことを確認しました。また、トランプ大統領は貿易不均衡の是正などに強い期待を示し、日米経済対話の場で2国間の貿易や投資の在り方などを引き続き議論していくことで一致しました。

安倍総理大臣とアメリカのトランプ大統領は、東京・港区元赤坂の迎賓館で、トランプ大統領の就任後、5度目となる日米首脳会談を行いました。

会談は、ワーキングランチと合わせておよそ1時間45分行われました。

この中で、安倍総理大臣が「今回のトランプ大統領の訪日で日米同盟をさらに確固たるものにしたい」と述べたのに対し、トランプ大統領は「私は特に貿易について強い信念を持っており、貿易赤字を減らし公平な貿易を行いたい」と述べました。

そして、両首脳は、北朝鮮情勢をめぐって、日米両国が100%ともにあるとして、北朝鮮に対し最大限の圧力をかけるため中国やロシアなど関係国に働きかけを強めていく

ことで一致するとともに、地域の安全保障情勢が厳しさを増す中で、日米同盟の抑止力や対処力の強化に取り組むことを確認しました。

また、安倍総理大臣が、北朝鮮に対する日本独自の制裁措置を強化するため35の団体と個人の資産凍結を行う方針を伝えたのに対し、トランプ大統領は歓迎する意向を示しました。

さらに、トランプ大統領は、北朝鮮のテロ支援国家への再指定について検討状況を説明しました。

一方、日米の貿易や投資などをめぐって、トランプ大統領が貿易不均衡の是正などに強い期待を示したのに対し、安倍総理大臣は、アメリカの貿易赤字に占める対日貿易赤字の比率がかつての6割近くから1割以下まで減少したことや、日本企業の直接雇用が製造業を中心に全米で86万人に上っていることなどを説明しました。

そして、両首脳は、麻生副総理兼財務大臣とペンス副大統領による日米経済対話の場で、アジア太平洋地域の貿易・投資の高い基準作りを含めて、2国間の貿易や投資の在り方を引き続き議論していくことで一致しました。

政府関係者によりますと、一連の会談で、トランプ大統領から日米のFTA＝自由貿易協定などへの言及はなかったということです。

また、両首脳は、自由で開かれた海洋秩序の重要性を確認したうえで、安倍総理大臣が先に提唱した「自由で開かれたインド太平洋戦略」をともに推進することで一致し、インド洋から太平洋にかけての海域で、法の支配や航行の自由の定着などに、各国と協力して取り組んでいくことを確認しました。

また、両首脳は、自由で開かれた海洋秩序の重要性を確認したうえで、安倍総理大臣が先に提唱した「自由で開かれたインド太平洋戦略」をともに推進することで一致し、インド洋から太平洋にかけての海域で、法の支配や航行の自由の定着などに、各国と協力して取り組んでいくことを確認しました。

トランプ大統領 共同記者会見発言

NHK11月6日 15時36分



トランプ大統領の共同記者会見での発言です。実り多い訪問

「ありがとう。実に楽しく、実りの多い訪問で、日米がこれほど緊密な関係になることはこれまでなかった」

「日本は素晴らしい国だ。素晴らしい文化と歴史と精神に満ちた国だ。安倍総理大臣が最近の総選挙で、容易に大勝したことを私は驚いていない。安倍総理大臣は国民からの信任を得た」

「日本は特別な場所だ。日本人や日本の都市は素晴らしい。経済も力強い。日本人は豊かな文化や歴史に敬意を持っている」

安倍首相は偉大な友人

「安倍総理との友情に感謝している。一緒に多くのことを達成することができた。娘のイバンカも、女性の活躍に関する国際会議に参加して女性の社会進出に向けて議論することができた」

「安倍総理大臣は選挙のあと、最初に会ってくれた偉大な友人だ。両国の歴史的な関係をさらに強めた。今後も、貿易や軍事の問題に取り組んでいく」

北朝鮮はとても容認できない

「北朝鮮は核実験を行い、弾道ミサイルを日本の領空に向けて直接、発射し、国際社会の安全を脅かしている。これはとても容認できない。『戦略的忍耐』は終わった。私の発言は、強すぎると言われるが、過去25年間の発言が弱すぎたのだ」

「日本には5万人のアメリカ軍兵士が駐在し、韓国には3万3000人が配備されている。日米はともに両国の防衛に取り組んでいる」

拉致 二度とこのようなことを起こさせてはならない

「安倍総理大臣は北朝鮮によって拉致された日本人の話も聞かせてくれた。私はきょう拉致被害者の家族と会うことができ、横田めぐみさんの母親とも会うことができた。40年以上も家族に会えない苦しい思いをするべきではない。二度とこのようなことを起こさせてはならない」

日米は公正で自由な貿易関係を築く

「去年の大統領選挙以降、アメリカの経済は上向きになっているということを認識してもらえてうれしい。株価もこれまでになく高い高くなっている」

「アメリカと日本は公正で自由な貿易関係を築く。平等で信頼できる市場へのアクセスを確保し、貿易赤字を解消する。この目的に向け話し合い、大きな進展があった」

日本は素晴らしい国 友好関係深めたい

「私を日本に招いていくれてありがとう。日本は素晴らしい国だ。今後も協力し、友好関係を深めたい」

銃乱射事件「精神疾患の問題」

南部テキサス州で起きた銃乱射事件について

「精神疾患の問題だ。アメリカでは大きな問題となっており、憂うべき事態だ。とても悲しい事件だ」

北朝鮮 国民は素晴らしい人たち

北朝鮮について

「国民は素晴らしい人たちだ。抑圧的な体制下におかれているがすべての人の状況がよりよくなるように取り組む」
拉致被害者を返せば 何か特別な始まりになるだろう
拉致問題について

「とても悲しいことだ。ひどい国に、言葉を教えるためや、ほかの目的のために拉致された。この問題について私は国連の演説で話したが、多くの日本人はとても感激してくれた。なぜなら拉致された人たちは忘れられた人たちだからだ。しかし安倍総理大臣は忘れなかった。だから、私と安倍総理大臣はともに取り組んでいきたい」「北朝鮮は拉致被害者を送り返してほしい。もし、この問題に光が当たり、キム・ジョンウン（金正恩）が拉致被害者を返せば、それは、何か特別な始まりになるだろう。今回、あまりにも長い間、苦しんだ人と話した。今後、何が起きるか注視していこう」

日本は米の兵器を大量に買う

「日本は最新鋭のステルス戦闘機F35など、アメリカの兵器を大量に買う。これは日本の安全のためだ」

習近平主席は素晴らしい友人

「中国の習近平国家主席は素晴らしい友人だ。貿易の状況は不公正で、貿易赤字は巨額だが、解決のため議論を始めた。アメリカは貿易で多くの国に不公正に扱われており、公正な貿易が必要だ」

トランプ大統領 来日中もツイッターで積極発信 NHK11月6日 16時56分



ツイッターを使った独自の発信で知られるアメリカのトランプ大統領は、今回の来日中も積極的に投稿していて、その発信内容がネット上で大きな関心を集めています。



トランプ大統領のツイッターの投稿を収集しているウェブサイトによりますと、去年11月に大統領選挙で勝利して以降、「JAPAN」という文字を含む投稿はこれまで11

件しかありませんでしたが、今回の外遊に出発して以降の日本に関連する投稿は6日昼までにすでに5件に上っています。

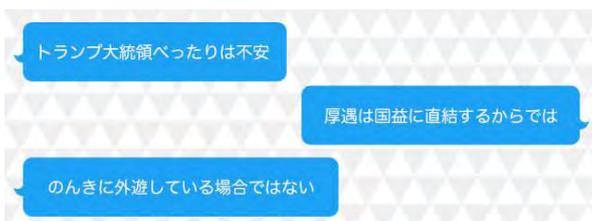
5日、横田基地に到着したあとには兵士たちを前にしたスピーチの様子を投稿したほか、その後の安倍総理大臣やプロゴルファーの松山英樹選手とのゴルフの様子もみずからスイングしている動画とともに投稿していました。

こうした投稿はさまざまな意見とともに共有され、ゴルフの投稿は2万1000件以上リツイートされるなど、関心の高さをうかがわせました。

また、トランプ大統領本人だけでなく、一足早く日本を訪れた長女のイバンカ大統領補佐官もツイッターやInstagramに連日写真を投稿したほか、メラニア夫人やアメリカのハガティ駐日大使、さらに大統領に同行しているホワイトハウスのスタッフも日本滞在中の様子を写真付きで積極的に投稿していました。

これに対して、日本側も、トランプ大統領の訪問についてSNSで積極的に情報発信を行っていて、安倍総理大臣はトランプ大統領の投稿をリツイートしていたほか、みずからのツイッターでも「すばらしい友人とのゴルフ。会話も弾みます」と投稿していました。

トランプ大統領来日にネットの反応は？



今回の来日については、ツイッター上では、トランプ大統領や長女のイバンカ氏への「厚遇ぶり」が話題になっています。

日米両首脳の親密ぶりをアピールする外交姿勢については、「トランプ大統領べったりの外交姿勢では不安になる」「きちんと意見を言える日本になれるかどうか問われる」という批判的なツイートがある一方で、「厚遇に批判はあるが国益に直結すると判断しているからではないか」「国益のために冷静な駆け引きで厚遇していることを望みたい」といった声も見られました。

また、トランプ政権の重要閣僚とロシア企業との関係を示す新たな問題が浮上したことについて、「のんきに外遊している場合ではないだろう」とトランプ大統領をめぐる本国での厳しい立場についての投稿も目立ちました。

海外メディア記者が見た訪日

一方、今回の訪問を取材している海外メディアの記者の投稿からは独自の視点が見えてきます。

アメリカの新聞ワシントン・ポストのアンナ・フィフィールド東京支局長は、トランプ大統領が天皇皇后両陛下との会見に臨んだ際の様子について「おじぎなし。車を降りた

ときもメラニア夫人が車から降りるのを待たずに先に行ってしまった」と投稿するなど、外交儀礼にとられる様子のないトランプ大統領のふるまいを伝えています。

また、同じくワシントン・ポストのアシュリー・パーカー記者は、共同記者会見での様子に触れ、「今回の外遊で初めて、トランプ大統領は疲れて、かすかに弱っているように見えた。長い日が何日か続き、時差ぼけもあるのだからしかたがないかもしれない」とツイートで分析していました。

自民 二階幹事長「意見交換の場 増やしていくこと必要」
NHK11月6日 19時17分



自民党の二階幹事長は国会内で記者団に対し、「日本や国際社会が直面する最大の問題点である北朝鮮問題について、十分な意見交換ができたのではないかと。日米同盟が強固であることは、両国や世界にとって安心感を与えるので、今後もトップどうしが頻繁に会い、ゴルフなども大いに活用し、意見交換の場を増やしていくことが必要だ」と述べました。

また、二階氏は「トランプ大統領が拉致被害者の家族に会って、痛切な思いを共有したことに感謝を示したい。また、貿易や経済活動については、お互いにウィンウィンの関係を築いていくことが必要だ」と述べました。

自民 岸田氏「北朝鮮問題で協力確認は大きな意義」
NHK11月6日 18時17分



自民党の岸田政務調査会長は党本部で記者団に対し、「北朝鮮問題への対応に、日米同盟の強化や日米両国間の意思疎通が重要であることは言うまでも無いが、今回、両国首脳がしっかりと会談し、協力を確認したことは大変大きな意義がある。加えて、トランプ大統領が拉致被害者家族の方々と会ったのは、アメリカ側にとっても、拉致問題が重要な課題であると示したということで意義がある」と述べました。

公明 山口代表「北朝鮮問題に日米の絆を世界に示せた」

NHK11月6日 18時23分



公明党の山口代表は国会内で記者団に対し、「北朝鮮の問題に、日米同盟の固い絆、揺るぎない絆を確認し、世界に示すことができた。日米の絆をもとに、中国やロシアなどとの連携を深めて、北朝鮮問題の解決にあたってもらいたい。拉致被害者のご家族とトランプ大統領の面会も、非常に温かい配慮を感じた。拉致問題に、アメリカとしても、関心を持って解決にあたってもらえる望みが出てきたことは、大変好ましい」と述べました。

一方、山口氏は「北朝鮮の現実の脅威が、まかり間違えば、具体的な被害が起りかねないところまで来ていることを考えた時に、防衛装備品の購入を検討することは、日本の防衛力を整えるためには大切な視点だ。一方で、アメリカ側としては、貿易の不均衡を解消するために重要な機能を持っており、双方の折り合う範囲を真摯（しんし）に求めていくことが重要だ」と述べました。

共産 志位委員長「北朝鮮問題で危険な無策があらわに」

NHK11月6日 18時36分



共産党の志位委員長は記者会見で「最大の懸案の北朝鮮問題では、外交的解決の方策は一切、語られず、両首脳から、本当の打開の方策は打ち出されなかった。ひと言で言う『危険な無策があらわになった』と言わないといけない」と述べました。

また、志位氏は北朝鮮による拉致問題に関連して「トランプ大統領は『軍事攻撃があった場合に拉致被害者をどう守るのか』という答えがなかった。非常に深刻なところで、答えを持ってないことが露呈した」と述べました。

さらに、志位氏は日本の防衛力の強化に関連したトランプ大統領と安倍総理大臣の記者会見での発言について、「異常なやり取りだった。『もっと兵器を買え』と公然と言い、その場で『そうしましょう』というやり取りだけが目立つ。日本が兵器を増やして、軍事で構えるということになれば、『軍事対軍事』の悪循環・緊張がエスカレートし日本側が拍車をかけることになる」と述べました。

立民 福山幹事長「緊密に話し合ったことは率直に評価」

NHK11月6日 18時28分



立憲民主党の福山幹事長は国会内で記者団に対し、「北朝鮮情勢が緊迫する中、日米の首脳が緊密に話し合ったことは、率直に評価したい。北朝鮮への圧力を高めることは、一定の評価をするが、武力行使のオプションを避け、圧力を高めることが対話につながるよう期待したい。記者会見の内容だけでは詳細が分からないので、安倍総理大臣には、国会で国民への説明を求めたい」と述べました。

そのうえで、福山氏は日本の防衛力の強化に関連した、トランプ大統領と安倍総理大臣の記者会見での発言について、「軍事力の強化として、アメリカが日本に何を買ってほしいと言っているのか詳細ではない。安倍政権になって防衛費は膨れあがっており、価格と有効性をしっかりとチェックしていきたい」と述べました。

民進 大塚代表「日米連携強化などを率直に評価」

NHK11月6日 20時18分



民進党の大塚代表は「日米が連携と結束を強化し、東アジア・西太平洋地域において、自由で開かれた海洋秩序を維持することの重要性について確認したことなどを率直に評価したい。また、拉致被害が極めて重要な国際問題であることを再確認したことも評価する。北朝鮮への圧力の強化は当然だが、圧力は、核・ミサイル計画を放棄させるための対話を導くものでなければならない。今回のトランプ大統領との会談内容などについて、可能な限り、国民ならびに国会に対して十分に説明することを求めたい」などとするコメントを出しました。

社民 又市幹事長「外交努力こそ求められている」

NHK11月6日 18時38分

社民党の又市幹事長はコメントを発表し、「北朝鮮への制裁や圧力ありきではなく、対話に向けた粘り強い外交努力こそ求められている。トランプ大統領の過激な言動や米韓合同軍事演習を慎むよう忠告し、戦禍を防ぐよう全力を挙げべきだ。また、アメリカからの防衛装備品の購入につい

ては、『北朝鮮からの脅威』を口実に、トランプ大統領に迎合して進んで負担を買って出る姿勢は極めて遺憾だ。日本がみずから進んで軍拡路線を歩み、これ以上の防衛費の増額や、違憲の『戦争法』に基づく日本の役割拡大を進めていくことは、断じて許されない』などとしています。



希望 大島幹事長「拉致問題に関しては一定の評価」

NHK11月6日 18時31分



希望の党の大島幹事長は、コメントを発表し、「北朝鮮に対し、日米の緊密な連携のもと、圧力強化の方針で合意したことは、わが国の国益の見地から、制裁や圧力は対話を導くための手段であるという、これまでの方針が確認されたと受け止めている。拉致問題に関しては、アメリカの協力が改めて期待できることになったことは、一定の評価をしたい。ただし、通商問題では、今後の両国の経済交渉に不安を抱かせるもので、政府は、アメリカに対し、安易に妥協すべきではない」などとしています。

維新 馬場幹事長「北朝鮮問題で米とよく連携を」

NHK11月6日 19時26分



日本維新の会の馬場幹事長は国会内で記者会見し、「会談を重ねるごとに中身の濃い会談になっているように見える。今後、二国間協議で貿易問題を詰めていかなければ、経済・産業界に大きな影響を与えるのは必至なので、さらに突っ込んだ議論を期待したい。北朝鮮問題について、圧力をかけながら、対話の糸口を作っていくことは、日本でもできる話なので、今後も、アメリカとは、よく連携をとって、アジアの安全保障をいかに守っていくか、議論していただきたい」と述べました。

中国外務省 中国の役割に触れた日米首脳会談に不快感

NHK11月6日 19時11分



安倍総理大臣とアメリカのトランプ大統領の会談で、北朝鮮に対する圧力をめぐって中国がさらに大きな役割を果たすことが重要だという認識で一致したことについて、中国外務省の華春瑩報道官は6日の記者会見で、「われわれは誰かに何をすべきか指摘される必要はない。中国は朝鮮半島の核問題を外交的な手段で平和的に解決できるようたゆまず努力している」と述べ、不快感を示しました。また、両首脳の見聞記者会見で、安倍総理大臣が北朝鮮から発射されたミサイルの迎撃に関して「われわれは迎撃の必要があるものについては迎撃する」と述べたことについて、華報道官は「朝鮮半島情勢は非常に複雑かつ敏感であり、関係国の1つ1つの言動が緊張を和らげるのに役立つものであるよう望む」と述べました。

しんぶん赤旗 2017年11月7日(火)

首相、すべての選択肢 改めて「支持」 日米首脳会談 対北朝鮮 対話否定 「軍事」を容認 トランプ氏は武器のセールスも

安倍晋三首相は6日、都内の迎賓館でトランプ米大統領と日米首脳会談を行い、北朝鮮の核・ミサイル開発問題で、『すべての選択肢がテーブルの上にある』とのトランプ大統領の立場を一貫して支持している」と述べ、北朝鮮に対する軍事力行使の選択肢を容認するとともに、「対話のための対話では全く意味がない」と対話を否定しました。

また、安倍首相は北朝鮮の政策を変えさせるため「圧力を最大限まで高めていくことで完全に一致した」と緊密な連携をアピール。独自の制裁措置として北朝鮮の35団体、個人の資産凍結を7日に決定すると発表しました。トランプ氏は、オバマ政権時代の「戦略的忍耐」と呼ばれる対北朝鮮政策が「終わった」と発言。「歴史はこれまでも繰り返し、強く、自由な国が独裁政権に勝利を収めてきた」と強調し、米軍の軍事力を誇示しました。

さらにトランプ氏は「日本がさまざまな防衛装備をアメリカから購入することになる。そうすれば上空でミサイルをうち落とすことができる」と発言。ステルス戦闘機F35に言及し「そうした装備を購入すべき」と堂々と武器のセールスを展開しました。安倍首相は、「北朝鮮情勢が厳しくなる中において、日本の防衛力を質的に、また量的に拡充していかなければならない」と述べ、軍拡を進める方針を表明しました。

両国間の貿易、経済について安倍首相は、アジア太平洋から中東アフリカに至るインド太平洋地域について「世界の人口の半分以上を擁する、世界の成長センター」だとの認識を示し、自由で開かれた海洋秩序の維持・強化が「この地域の平和と安定にとって死活的に重要」と強調。「ゆるぎない日米同盟のもと、トランプ大統領とともに手を携えて」「主導的な役割を果たす」と表明しました。トランプ氏は「公平で自由で互恵的な貿易環境」を築き、「日本に対する貿易赤字を減らしていかなければならない」と発言しました。

しんぶん赤旗 2017年11月7日(火)

“危険な無策”があらわに 日米首脳会談 志位委員長が会見

日本共産党の志位和夫委員長は6日、国会内で記者会見し、北朝鮮問題が最大の懸案事項となった日米首脳会談について「一言で言うと、“危険な無策”があらわになった」と指摘し、安倍晋三首相とトランプ米大統領ともに対話による解決を否定し、軍事力行使を選択肢に含むという従来の主張を繰り返したことを厳しく批判しました。



安倍首相は、首脳会談後の共同記者会見で、北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐる高まる米朝間の軍事的緊張について、「対話のための対話は意味がない」として対話を否定し、「すべての選択肢はテーブルの上にあるというトランプ大統領の政策を支持する」として米国の軍事力行使を容認する従来の立場を繰り返しました。

志位氏は「外交的解決のための方策については一切語られなかった。今まさに外交的解決をいかにやるかということについて両首脳が知恵をしぼることが必要であるにもかかわらず、新しいものが何もでてこなかった」と指摘。

「一言でいって“危険な無策”があらわになった」と批判しました。

志位氏は、退役軍人である民主・共和両党の米下院議員16人が4日付で出した共同声明に言及しました。

声明は、米統合参謀本部が北朝鮮の核兵器を完全に破壊する唯一の方法は陸上侵攻だと認めたことは非常に重大だとして、「何十万、あるいは何百万もの人命が、最初の数日の戦闘で失われることすら意味する」と指摘。「北朝鮮問題で有効な軍事選択肢というものはない」「軍事選択肢が検討される前に、全ての外交・経済オプションがとられなければならない」と強調しています。

志位氏は、北朝鮮問題を解決するには、声明が述べるようにあらゆる外交・経済オプションがとられなければいけないと指摘。米朝が危機打開のための直接対話に踏み出し、日本政府が、トランプ大統領に対して先制的な軍事力行使をするべきでないと提起することが必要だと強調しました。

さらに、トランプ大統領が兵器を買うよう求めたのに対し、安倍首相も呼応したことについて、「異常なやりとりだ。ああいう場でもっと兵器を買えと公然と言い、そうしようというやりとりだけが目立つ。日本が兵器を増やして軍事で構えるということになれば、軍事対軍事の悪循環がエスカレートする。それを日本の側が拍車をかけるということになる」と厳しく批判しました。

志位氏は、両首脳の見解の質疑で、安倍首相が偶発的な軍事衝突が起こる懸念に対する手立てについて問われて全く答えなかったこと、トランプ大統領も、米国が軍事攻撃のオプションをとった場合に拉致被害者が危険にさらされる懸念に対し、一切答えなかったことを指摘し、「非常に深刻なところで両首脳が答えを持っていないということが露呈した」と述べました。